

令和5年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：23022
学校名：伏古小学校

	令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	□握力・上体起こし・20m シャトルラン・立ち幅跳び・ソフトボール投げ →全国平均より、上回っている。	□反復横跳び・長座体前屈・50m 走 →全国平均を下回っている。	なわとび週間の取組を続けてきたが、反復横跳びや50m走の結果が全国平均より下回っていた。コロナ禍による運動不足が露呈した結果となっている。
体力・運動能力 <女子>	□握力 →全国平均より、上回っている。	□50m 走・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・20m シャトルラン・長座体前屈・上体起こし →全国平均を下回っている。	なわとび週間の取組を続けてきたが、反復横跳びや50m走の結果が全国平均より下回っていた。また、20mシャトルランの結果から、持久力不足が見とれる。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	「運動やスポーツをすることが好き」「体育の授業は楽しい」と回答する子どもの割合 R04 男子 85.2% 女子 70.3%	体育の授業を除く一週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動しない子ども」の割合 R04 男子 3.7% 女子 6.9%	子どもに対して取組を行ったが、運動時間の増加など明確な効果は現れていない。
三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③健康に関する指導の充実
具体的な取組	○委員会活動での運動機会拡充 委員会などで休み時間に様々な運動が取り組めるようにする。（例：伏古ジム） ○体育科における「なわとび」活用 目標をもって取り組むことができるようにする。 ○健康管理を考えた生活習慣の見直しを図る指導 「風邪等の感染症予防等の衛生指導」「十分な睡眠時間の指導」「長期休業中の規則正しい過ごし方」	○外遊びの推進 児童委員会からの発信や日課表の工夫など（例：教室からつぼ週間、雪遊び日課） ○三間（仲間・時間・空間）の創出 ドッジボールコート・サッカーコートの設置 ○家庭での運動習慣の定着 「さっぼろっ子『学び』のススメ」の活用。学校便りなどでの啓発。 ○「なわとび運動」の推進 通年で縄跳び運動に取り組む。児童の意欲が持続するように工夫した縄跳びカードを利用し、全校で取り組む。	○栄養教諭・養護教諭・学校医等の連携による健康管理の指導 「食指導」「薬剤師による薬害指導」「助産師による命の指導」 ○各教科等の内容と関連付けた健康教育の推進。 ○健康的な運動週間・生活習慣づくりの推進。 ○保健所からゲストティーチャーを迎えての健康指導
検証の方法	○保健体育の評価規準に基づく学習状況評価結果の活用（日常の実技テストや観察等） ○全国体力・運動能力の調査結果等を活用 ○全国学力学習状況調査の児童質問紙の活用		